

環 政 第 383 号  
平成28年 8月10日

成田国際空港株式会社  
代表取締役社長 夏目 誠 殿

茨城県知事 橋 本 昌

「成田空港の更なる機能強化計画段階環境配慮書」に対する知事意見について

平成28年6月9日付けで送付された標記の計画段階環境配慮書について、茨城県環境影響評価条例第4の5の規定に基づき、別添のとおり環境の保全の見地からの意見を述べる。

なお、環境影響評価方法書の作成にあたっては、本意見を十分に勘案して作成するよう願います。

## 成田空港の更なる機能強化に係る計画段階配慮書に対する知事意見

「成田空港の更なる機能強化計画段階環境配慮書」（以下「配慮書」という。）について、稲敷市、河内町及び住民の意見にも配慮しながら、事業者からの聞き取りを実施し、慎重に検討を行った結果、環境保全の見地からの意見は下記のとおりである。

### 記

#### 1 総括的事項

(1) 事業計画の具体化に伴い、滑走路の位置等を選定するにあたっては、航空機が本県の上空を飛行する回数が相当に多くなることや飛行ルートによっては影響地域が拡大し、環境負荷が増加することが懸念させることから、住民への影響を回避又は低減することを最大限に考慮の上、十分に検討し決定すること。

なお、滑走路の位置を検討した内容及びその結果については、方法書以降の図書に記載すること。

さらに、事業計画を具体化する過程においては、関係地域の住民から理解が得られるよう努めること。

(2) 環境影響評価方法書以降の図書は、関係地域の住民が事業の実施に伴う住環境への影響を明確に理解できるよう、創意工夫のうえ作成すること。

#### 2 個別的事項

##### (1) 騒音

稲敷市、河内町においては航空機の騒音が一層拡大することが懸念されることから、生活環境の保全の観点踏まえ、これらの影響を可能な限り低減・回避を図るよう、地域の意見を考慮し十分な調査を行い、滑走路の位置及び飛行ルートを選定すること。

また、供用時の必要な措置として、航空機発着ピーク時間帯の抑制による平準化、騒音軽減運行策などの騒音対策についても検討を進め、方法書以降の図書に記載すること。

##### (2) 動物

本県には、稲敷市江戸崎地区に関東で唯一の「オオヒシクイ」の貴重な越冬地があることから、飛行ルートの選定にあたっては、これらの渡り鳥への影響を回避するため、専門家の意見や科学的な知見による検討を行うこと。